

鉄鋼概況

2012年の世界鋼材需要見通し 初の14億トン超

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

8月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比3.4%で3カ月ぶりに増加し、国内在庫率は前月末比12.5ポイント上昇の152.2%と高水準となった。9月の国内粗鋼生産量は前年同月比3.8%減、1日当たりの粗鋼生産量は29万6,000トン（年率換算1億800万トン）と前月より9,000トン多かったが、前年水準には届かなかった。9月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比11.8%減の326万8,000トンと7カ月連続の減少で、円高のなか鉄鋼市況の停滞が続いている。経済産業省が発表した2011年10～12月期の需要相当の粗鋼見通しは、前期生産実績見込み比0.3%増で、これを織り込むと2011暦年は前年比1.1%減の1億836万トンとほぼ前年並みを維持する見通しである。ただし、この見通し発表後のタイ洪水の影響によって、鉄鋼輸出は10月以降さらに減少傾向を強めることが懸念されている。世界鉄鋼協会の鋼材消費見通しによると、2011年は前年比6.5%増加、2012年は前年比5.4%増で初の14億トン超となり、需要が堅調に伸びる一方で原料の供給の伸びが追いつかず、とりわけ原料炭で需給が窮屈な状況が続くと懸念している。9月の粗鋼生産実績（64カ国）は前月比0.5%減と4カ月連続の減少となったが、中国が4カ月連続で減少する一方で中国以外では2カ月ぶりに増加した。

@@

◆上期全国粗鋼5,331万トン、震災で3.8%減

鉄鋼連盟が発表した8月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比3.4%、18万7,000トン増の561万7,000トンと、季節要因もあり5月末以来3カ月ぶりに増加した。国内在庫率は前月末比12.5ポイント上昇の152.2%と150%を超える高い水準となった。一方、8月末の普通鋼鋼材流通在庫は、鉄連が行った全国市中鋼材数量調査によると、前月末比1.0%、2万6,000トン増の275万2,000トンと2カ月ぶりに増加した。8月の販売量は前年同月比1.1%、2万6,000トン増の247万トンと6カ月ぶりに上昇した。その結果、8月末の在庫率は、前月末比3.7ポイント上昇の114.7%となった。

主要鋼材の在庫状況をみると、8月末の薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比16万3,000トン増加し434万5,000トンとなった。7月から8月にかけては、季節要因から過去10年間の平均で19万トン増えており、平均増加量よりは少なかったものの、2009年3月（425万7,000トン）以来の高水準となった。在庫率は2.51カ月（前月末は2.41カ月）で、適正とされる2.0カ月を大幅に上回っている。メーカーでは「早期に在庫の適正化を図る必要がある」（新日鉄）としている。建材主要製品であるH形鋼の9月末全国流通在庫は新日鉄系の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比1万1,700トン、6.1%減の18万9,000トンと3カ月連続で減少し、5カ月ぶりに18万台となった。在庫減の要因は小口案件の増加に加え、先高感による一部の駆け込み需要などで出庫が増えたことによる。在庫率は1.91カ月と6カ月ぶりに2カ月を割込んだ。

鉄連が発表した9月の国内粗鋼生産量は、前年同月比3.8%減の888万2,000トンにとどまり、2カ月ぶりに前年実績を下回った。1日当たりの粗鋼生産量は29万6,000トン（年率換算1億800万トン）と前月より9,000トン多かったが前年水準には届かなかった。炉別にみると、転炉鋼が同3.8%減の680万トン、電炉鋼が0.7%増の208万トンとなった。この結果、2011年度上半期（4～9月）の国内粗鋼生産量は5,331万トンとなり、前年同期に比べ3.8%減少した。大震災の発生に伴い、4～6月期に生産活動が低下し、年度上半期では1年ぶりの減少となった。炉別生産をみると、転炉鋼は前年同期比5.1%減の4,106万トン、電炉鋼は同0.8%増の1,225万トンだった。震災後にサプライチェーンの混乱から自動車などの需要産業の生産活動が低下した影響で、高炉メーカーの生産が伸び悩んだ。

財務省が発表した9月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比11.8%減の326万8,000トンと7カ月連続して減少し、前月比でも5.4%減となり2カ月ぶりに減少した。円高の中で鉄鋼市況の停滞が続いている結果である。輸入は前年同月比6.1%増の55万9,500トンと5カ月連続で増加したが、前月比では14.6%減と2カ月ぶりに減少した。国・地域別の輸出量をみると、8割を占めるアジア向けは262万7,000トンと前年同月比13.6%減、前月比5.0%減で、うちアジアNIE'sは94万9,000トンとそれぞれ29.8%減、12.3%減と大幅に減少した。中国は高水準の自動車生産が続き、1.6%減、3.1%減と減少幅は抑えられた。大震災の影響から回復傾向にあったASEANは94万トン8,000トンと7.9%減、5.9%減と減少に転じた。中東は12万9,000トンで27%増、18.9%減となった。国・地域別輸入量はアジアからが43万3,400トンと前年同月比16.0%増となったが、前月比では16.3%減となった。そのうちアジアNIE'sから34万4,600トンで17.1%増、15.2%減、中国からが8万5,800トンと21.8%増、15.7%減となった。この結果、2011年度上半期（4～9月）の鉄鋼輸出は前年同期比5.9%減の2,015万7,000トン、鉄鋼輸入は同5.9%増の393万5,000トンとなった。

◆10～12月粗鋼生産2,718万トン——経産省見通し

経済産業省が発表した2011年度第3四半期（10～12月期）の需要相当の粗鋼見通しは2,718万トンで、前期生産実績見込み比0.3%、7万トン増と2期連続で増加した（前年同期比では1.8%、48万トン減）。鋼材需要は前期比1.9%増の2,455万トンと見通している。

そのうち、輸出は円高の影響に伴い前期比2.6%減の825万トンと減じる一方、国内向けは前期比4.2%、67万トンの1,585万トンに増加する。輸出が減った分を国内でカバーする構図となっている。国内では自動車など需要産業が震災後の落込みから急回復しているのを受け、鋼材需要も回復基調が続くが、欧米の経済動向や円高の長期化など下振れリスクも懸念されている。自動車需要は前期比6.2%増の305万と見込んでいる。震災の復興需要に関しては、総額4兆円の1次補正予算が一部執行されるために、土木部門での鋼材需要を押し上げる見通しである（前期比19.1%増の141万トン）。ただ、復旧・復興需要が本格化するのには、早くも2012年1月以降と見られている。

この10～12月期の粗鋼生産見通しを織り込むと、2011暦年の粗鋼生産は1億836万トンとなり、前年比1.1%減とほぼ前年並みを維持する見通しとなっている。

なお、当見通し発表後タイ洪水の影響によって自動車をはじめとする日系企業の生産停滞が長引いており、鉄鋼輸出は10月以降さらに減少傾向を強めることが懸念されている。

◆2012年鋼材需要14億トン超、WSA見通し

世界鉄鋼協会（WSA）は、10月中旬パリで年次総会を開催し、2011年、12年の鋼材消

費見通しを発表した。それによると、2011年の鋼材見通しは13億9,700万トンと、前年（13億1,200万トン）に比して6.5%増加する。中国は6億4,300万トンで同7.5%増、中国以外は7億5,400万トンで同5.6%増となる。BRIC'sは7.2%伸び、うちインドは4.3%増の6,770万トンに増加する。EU27カ国は7.0%増、北米が9.0%伸びるなど先進国でも回復が続く。日本は6,180万トンで2.7%減少すると見通している。当見通しを作成するにあたって、欧州の財政危機、日本の地震などの下押し要因を織り込んだとしている。

2012年の鋼材消費は、前年比5.4%増の14億7,360万トンで、伸び率は鈍化するものの初の14億トン超を見通している。中国は伸び率が前年より鈍化するが、6.0%増の6億8,160万トンと見通しており、中国以外は前年比5.0%増の7億9,200万トンと予測している。BRIC'sは6.4%増、うちインドは7.9%増とみている。先進国ではEU27カ国が2.5%増、北米が4.9%増と回復が続くとしている。日本は6,230万トンで同0.8%増にとどまると予測している。

なお、当見通しでは、需要が堅調に伸びる一方で原料の供給の伸びが追いつかず、とりわけ原料炭で需給が窮屈な状況が続くと懸念している。

表－1 鋼材見掛け消費見通し

		(単位:100万トン、カッコ内前年比%)	
		2011	2012
E U 2 7 カ 国		155.0 (7.0)	158.9 (2.5)
他 欧 州		33.0 (11.3)	34.8 (5.7)
C I S		55.6 (14.4)	59.8 (7.5)
N A F T A		120.9 (9.0)	126.8 (4.9)
中 南 米		47.8 (4.7)	52.4 (9.8)
アフリカ		21.4 (△12.7)	23.8 (11.0)
中 東		50.0 (5.0)	53.9 (7.9)
アジア・オセアニア		914.0 (6.2)	963.1 (5.4)
中 国		643.2 (7.5)	681.6 (6.0)
世 界 計		1,397.5 (6.5)	1,473.6 (5.4)

(資料) 世界鉄鋼協会まとめ

◆9月世界粗鋼生産、前月比0.5%減

世界鉄鋼連盟がまとめた9月の粗鋼生産実績(64カ国)によると、前月比0.5%減の1億2,356万7,000トンと4カ月連続で減少した。中国が4カ月連続で減少したが、中国以外では2カ月ぶりに増加した。前年同月比では9.7%の増加で、24カ月連続で前年同月実績を上回った。64カ国の日産量は前月比2.8%増と3カ月ぶりに増加した。製鋼操業率は79.1%と前月比で1.8ポイント、前年同月比で3.5ポイント上昇した。中国の粗鋼生産量は5,670万トンで、日産量では前月比0.3%減と3カ月連続で減少したが、中国以外は粗鋼生産量は6,690万トンで、日産量は5.5%増と3カ月ぶりに増加した。

主要国の日産量についてみると、インドは前月比0.2%減と4月以来の減少であった。韓国は同2.6%増と4月以来の増加となった。ブラジルは同2.0%減と2カ月連続で減少した。EU27は前月比22.6%と6カ月ぶりに増加した。北米は0.6%増とわずかながら2カ月連続で増加した。日本は3.0%と3カ月ぶりに増加した。

1～9月の累計粗鋼生産量は11億3,381万トンと前年同期比8.2%増となり、年間で初の15億トンペースを維持している。しかし、景気の減速を受け鉄鋼メーカーに減産の動きが広まっており、10月以降の生産次第で年間で15億トンに届かない可能性が出てきた。□